2010年　第 7 回特別講義　レポート

日時	2010 年 12 月 17 日（金）　10:00～12:00
会場	(財)日本科学技術連盟・東高円寺ビル　2 階講堂
テーマ	「ソフトウェア開発の工業化と品質管理」
講師名・所属	渡辺　純氏　（富士通アプリケーションズ株式会社）
司会	特別コース　ソフトウェア品質保証の基礎分科会主査　池田
アジェンダ	1. 会社紹介 2. FAP におけるアプリ開発の工業化 3. 品質担保の仕組みと実際 4. 最近の FAP の取組み
アブストラクト	大規模アプリケーション開発を高品質、短納期、低コストで実現するには「ソフトウェア開発の工業化」が必須であるという考え方のもと、同社では「人が主役」と「徹底したムダの排除」にこだわる取り組みを行っている。ソフトウェア開発の工業化の取り組みを属人的開発スタイルからプロセス重視の組織的開発スタイルへの改善の歩みとしてとらえ、自律改善活動の行動規範である「4つの約束事」と「6つの仕掛け」を具体的な実績データを交え紹介する。

＜講義を通じて感じたこと、得たこと＞

先ず最初に「品質はリスクマネジメントであり、開発マネジメントである。」「マネジメントには開発マネジメントとプロジェクトマネジメントの2つがあるが、特に開発マネジメントに問題があると品質に影響が出る。」という当たり前のようではありますが、個人的には目からうろこが落ちるような衝撃的なお話から始まり、その背景として、システム要件がブラックボックス化していることでプログラムの書けない SE が実際に存在すること、ものづくりの力が弱っている為にそこをパートナーに出すことでノウハウが蓄積されないこと、またワークスタイルがはっきりしていないが故にお金を出すだけで責任の取り方が弱っていることなどの問題を定義し、その改善テーマとして「個人の特性に支配される現場の実態」つまり属人性を排除することで徹底的に無駄を省き、生産性の向上を目指す、という誰もがミッションとしてはいるが実際には思ったように効果が表れない、或いは啓蒙や実践が困難なテーマについて、とても貴重なそして⇒核心の誤記？に迫る内容となっていました。　⇒一文が長いのでどこかで切ってはどうでしょう。

取り組みとしては、⇒トヨタ生産方式でよいのでは。を自社流に変えたものをベースとしていて、例えば、ものづくりの要素を分解することで、一つひとつのプロセスでどれくらいのコストがかかっているかなど、コスト増加に繋がる変動要因を最小限度にしていくコツや現場作業者の能力発

揮を目的としたトップダウンではないプロセスの標準化など、「徹底した無駄の排除」や「人が主役」に拘る考え方にはとても興味深いものがあり、まさに自社開発に拘ったプロ集団だと感じました。

中には、開発マネジメントにおけるスキル管理や原価管理を行なっていく上での「4 つのルールと 6 つのプロセス」⇒資料ではたしか「4つの約束事と6つの仕掛け」と記されていると思います。括弧書きで書くのであればオリジナルの表記が良いです。というものがあり、約束事として「人月ではなく時間で考える」ことや「仕事票は毎日正しく記入する」など、現場作業者へ業務の一環として導入している作業実績の入力内容や時間管理などの実例がありましたが、その細かさには目を見張るものがあり、一般的なものとは比べ物にならないほど厳密に報告させているといった印象でした。

こういった地道な努力と継続がマネジメントの問題を取り除くことに繋がり、そして品質を向上させていくのだと、本当に関心⇒感心の誤記？いたしました。
個人的には、2 時間では足りず 1 日でも聴いていたいお話で、時間が過ぎるを忘れていました。